



神澤正輝会長が小学生団体の部優勝の三田尚勇館Aチームに優勝旗を授与

で準決勝戦、西神・栄を4-1と一方的に退けて、決勝に進出した。決勝では最近めきめき力をつけて来た三田の尚勇館Aチームと対戦した。決勝戦、三田尚勇館先鋒は小柄ながら玄妙な技を駆使する樋口龍太君(4年)、志染河野誠亮もよく戦ったが両者譲らず引き分け、次鋒寺口ひかる、懸命に食い下がるが、相手四元に1本負けする。中堅中西涼風よく挽回して振

団体戦では、志染以外三木勢はいずれも力不足で、早々と予選リーグ戦で姿を消した。一人気を吐く志染勢は、唯一決勝トーナメントに出場した。栗田監督に鍛えられ、密に優勝を狙っていた。予選リーグ、社剣道Bを5-0、羽束Bを5-0と一方的に降した。後、決勝トーナメントでも加西スポーツ少年団剣道部を5-0で、次い

生田龍平殊勲の活躍 見せた団体戦の妙

り出しに。しかし志染の抵抗もこれまでだった。副将、大将と連破され3-1で敗退。優勝旗は奪えなかった。



中学生団体戦を制した志染SSDチームの3選手
(右から大前、生田、栗田)

称えるべきは中学生団体戦。中学剣道部の選手が沢山出場している中において、志染チームは、クラブメンバーでチームを組んだ。予選リーグでは、中町Bを3-0、加西S少年団を1-0で下して、決勝トーナメントへ。決勝トーナメント戦では、次鋒加村仁奈(3年女子)に替わって出場した生田龍平が抜群の働きを見せた。決勝トーナメント第1戦は竹昇会A(丹波市)を3-0で破る。

準決勝は対春日台戦。大接戦であった。先鋒栗田真之助引き分けの後、中堅生田がメン・コテの2本勝ち。しかし大将戦では大前が



優勝旗を手にする殊勲の生田選手と先鋒の栗田(右)、大将の大前(左)

コテを先取され、コテを取り返し、時間切れ寸前にメンを決められる。勝者同数だが本数で1本リードでかろうじて決勝戦に。社剣道との決勝戦では、先鋒栗田引き分けたが、中堅生田がド・メン連取で大将戦となる。大前、相手望月にメンを取られるも必死で守り切り、敗れはしたが1本負けに踏みとどまった。結果、勝者



優勝に貢献した志染大前選手(右)

勝ち方としてはチーム一丸の理想的な勝ち方だった。小学生・中学生とも東播大会以来元気の出ない三木勢にあって、一人志染スポーツ少年団剣道部チームが、若い栗田良之助コーチを迎え、選手もその期待に応え、よく稽古に励んで見事、地元開催に花を添えたのは立派であった。試合後の後片付けも、三木市剣道連盟会員、高校生、教室育成会員ら総出でかかり、見事な結束ぶりだった。

(報告 高橋洋三)



地元開催の期待に応え、団体、個人で活躍した志染SSDの選手たち